

お知らせ

平成 20 年 11 月

GHRP-2 負荷試験の適応判定基準への追加について

平成 19 年度の間脳下垂体機能障害に関する調査研究班の「成長ホルモン分泌不全性低身長症 診断の手引き」に、GHRP-2 負荷試験が分泌刺激試験の 1 つとして追加されました。GHRP-2 $2 \mu\text{g}/\text{kg}$ (最大 $100 \mu\text{g}$) を静脈投与し、負荷前および負荷後 60 分にわたり、15 分ごとに採血する方法です。成長ホルモン分泌不全性低身長症の診断基準となるカットオフ値は $16\text{ng}/\text{ml}$ です。

これに伴い、平成 20 年 11 月より成長科学協会における「成長ホルモン分泌不全性低身長症 ヒト成長ホルモン治療適応判定依頼書」を改訂し、適応判定も、調査研究班の「診断の手引き」に従って、GHRP-2 負荷試験も含めて判定致します。詳細については、成長科学協会ホームページ (<http://www.fgs.or.jp>) 上の「記入の手引」の「ヒト成長ホルモン治療開始時の適応基準」および「記入に当たっての注意」を参照下さい。

なお、平成 20 年 11 月 1 日現在では、GHRP-2 負荷試験は、小児慢性特定疾患研究事業における GH 分泌負荷試験としてはまだ認められておりませんので、ご注意下さい。

財団法人 成長科学協会